

「障害者週間」をご存じですか？

障害者基本法（第九条第一項）
【障害者週間】

国民の間に広く基本原則に関する関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加することを促進するため、障害者週間を設ける。

12月3日～9日は「障害者週間」です



(共同募金からの助成金の一部で作成しています。)

編集 NPO法人 埼玉県障害者協議会
編集責任者 田中 一
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
埼玉県障害者交流センター内
TEL048 (825) 0707 FAX048 (825) 3070
メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp

発行 NPO法人 埼玉障害者センター
〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
埼玉県障害者交流センター内
TEL・FAX 048 (833) 7027

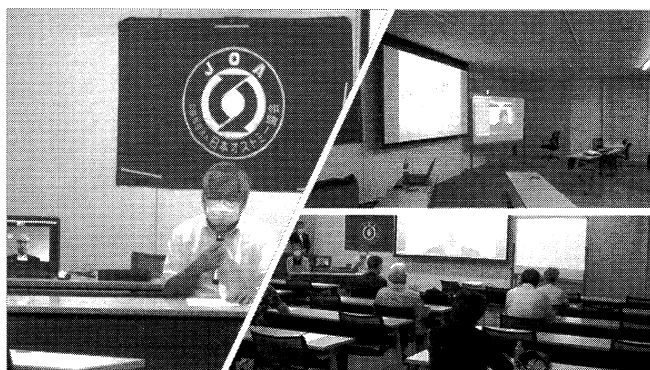
発売日 毎月10日、20日、30日

定価 一部 100円(購読料は会費に含まれます)

地区研修会 川越医療講習会報告

公益社団法人 日本オストミー協会 埼玉県支部 ^{かっさい}葛西 ^{まこと}誠

地区研修会は、従来、講師の先生を会場にお招きし、会員や一般の方々を会場に集めた公開研修会なのです。今回は、新型コロナウイルス対策を万全にするため、講師の先生は勤務先からご講演いただき、会場に大型スクリーンを2台設置して、会員や一般の方々は会場で大型スクリーンを通して講演を聴くという新しい方式のリモート講習会として開催しました。



9月20日(日)、川越市ウェスタ川越にて、日本オストミー協会埼玉県支部の医療講習会を実施しました。テーマは、自治医大付属さいたま医療センター 辻仲眞康志先生の『がん治療のいま』及び鳩ヶ谷訪問看護ステーション 皮膚・排泄ケア認定看護師 持田智江美先生による「ストーマケアの基本とコロナ対策」です。

会場には、足元の悪い中30名強の会員、医療関係者が参加され、活発な質疑応答もあり無事新しい試みは成功裡に終了しました。

埼玉県障害者協議会代表理事田中一様から、挨拶を戴きました。

「埼玉県障害者協議会は、県内障害者団体36団体加盟の団体会員による組織で、日本オストミー協会埼玉県支部も当協議会に加盟戴き、障害者協議会の活動に積極的に協力を戴いています。今月のオストミー協会会報誌に、障害を持ちストーマ生活になった会員の経緯を色々書いておられました。佐賀県の有田町で、夫婦で陶芸をやっていて、奥様がストーマ生活になり、色々困難があっても夫婦協力して、しっかり支えて生きているということが文章の中から伝わってきて印象に残った記事だったことを記憶しております。

各団体ともコロナの影響で活動が十分に出来ない中、様々な事業活動が中止、延期で、人が集まることが出来ない状態です。密にならない状態で集まる方法があれば大変良い事です。新しい会議形式によって会員の方が確保できる事は良い事だと思います。私もオス

トミー協会埼玉県支部の皆さんとお話することでさまざまな事を学びました。特に、オストマーは見えない障害ですので苦労も沢山有るかと思いますが、一緒に手を携えて活動していければと思っております。共に前向きに、明るい笑顔が人を幸せにします。

今日は勉強させて頂きますので宜しくお願いします。」

「がん治療のいま」

- で、
- ① がんの統計
 - ② がんの要因
 - ③ がんの予防
 - ④ がんの治療

4項目の話がありました。

国民の2人に1人が、がんになる時代、がんになる確率は上昇しますが、がんで死亡する確率は下がります。

がんの要因

は、喫煙、飲酒、感染【ピロリ菌（胃がん）、肝炎ウイルス（肝臓がん）、パピローマウイルス（子宮頸がん）】などあります。要因が判明しているのは、男子で5割、女性で3割だけで、残りは原因不明であります。

ガン予防

は、消化のよいものをとる、脂ものを控える、規則正しい生活、ストレスのないようにすることがよいとされていますが、なりにくくすることはできません。しかし、完全に防ぐことは出来ません。**禁煙・節酒・食生活・運動・適正体重維持**、5つを実践すれば、がんのリスクは、男性で43%低下、女性で37%低下することが出来ます。

がんの治療

は、嘗ては、手術、薬物治療（抗がん剤）、放射線治療、が三大治療といわれていました。現在は**免疫療法が追加**されています。

これまでの医療は、同じ病気と診断された全

ての患者さんに、一律で治療を行ってまいりました。いま、現在の個別化医療は、治療に関連する遺伝子などを調べ、ある薬の効果が期待できる患者さんを選別して、その治療を行います。将来の個別化医療といわれるのは、患者さんの遺伝情報をより詳細に調べ、一人ひとりに合わせた治療を行うようになるということです。

在宅におけるストーマケアの目標は、ストーマがあっても、誰もが在宅でその人の望む生活と療養の折り合いをつけていくことです。その為、スキンケアと生活支援を継続的に実施していくことが必要であります。

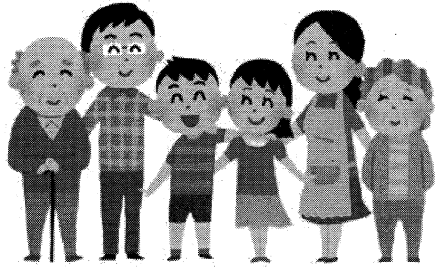
ストーマケアの基本と コロナ対策をまとめると

- 慌てずいつも通り、基本的なストーマケアを実施する
- ウイルスは目に見えない為、感染予防の基本は手洗い
- 栄養と睡眠をとり、気分転換をしながら元気に過ごす
- 体調チェックを行い、症状がある時は外出しない
- 3密は避ける
- 移動はマスクを着けて距離をとり、現着したら手洗い
- 私達にできること、思いやりの心を忘れないこと

がん治療専門医として、がんを治す、身体的苦しみからの解放を、看護の立場から、ストーマを抱えながらコロナ対応して生きていく現場視点での話、有意義な講習会でした。

当支部も今後感染リスクを考慮し、オストメイトのQOL（生活の質）の向上に役立てる新たな活動に取り組んでいきたいと思っております。

わたしたちは、今!



全国障害者問題研究会 埼玉支部

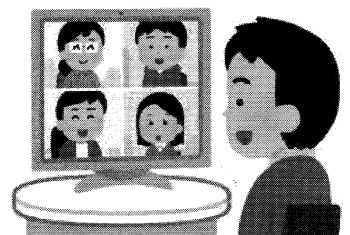
事務局次長 たけわき しんご
竹脇 真悟

今年度当会でもコロナ禍にあつて外出制限がある中、障害者・家族の孤立化を防ぎ、仲間とどのようにつながっていくのが課題となっています。

支部事務局を中心にして、乳幼児期、学齢期、青年期、高齢期など各ライフステージで、コロナによってどのような困難があるのかを会員から情報収集していきました。外出できなくなったことで身体の機能低下が起こったり、ヘルパーを必要最低限に減らしてはいるが、ヘルパーが感染したときの生活の不安を抱えていたり、まつりなどの出店ができないために製品が売れず作業所の経営が難しくなっていたりするなど深刻な状況を会報で伝え情報共有する活動を行いました。

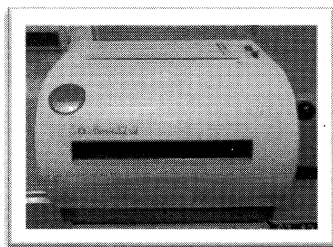
こんな時だからこそ学習活動を継続しようと、オンラインでの講座を企画しています。先日は、成人障害者のくらしの場を豊かにする課題を仏教大学の田中先生を講師にグループトークを交えながら深め合いました。自宅にいながら参加できるのでとても良いとの声がありましたが、自宅のネット環境が整っていない方の参加保障をどのようにするのが課題です。

今後もコロナに負けず、障害児者の発達と権利を保障する学習研究活動を続けていきたいと思ひます。



点字プリンター新機種 DOG-Basic32 V2を導入いたしました

令和2年8月7日、埼玉県障害者交流センターの印刷室に、点字プリンターの新機種DOG-Basic32 V2を導入いたしました。前機種 Brailleprinter TP-32を購入・設置したのは今から二十数年前のため、老朽化が進み、たびたび動作不良を起こしていたために買い替えました。

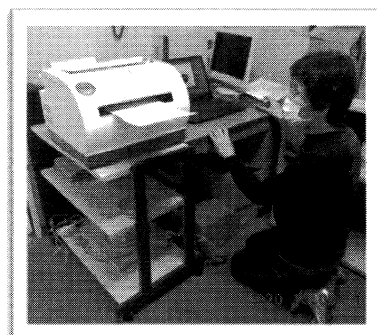


今回の点字プリンター買い替えに際しては、公益信託高橋保蔵視覚障害者福祉基金助成事業による助成金により購入できました。

点字プリンター
DOG-Basic32 V2

このDOG-Basic32 V2は今後、当協議会の各種会議・研修会、各種事業、埼玉県障害者交流センターの事業案内や障害者卓球大会開催時の資料等を点字翻訳する際など、様々な機会に活用され、多くの視覚障害者・盲ろう者の方への情報提供の大きな助けになります。

今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い致します。
特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会



点字翻訳ボランティア
「ほたるの会」さんが
プリンターを使用している様子

<賛助会員加入のお願い>

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年8回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口 2,000円です。入会をご希望の方は、右記の口座へお振込み下さい。

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会

<郵便振替>

【口座番号】

00130-9-673233

【口座名称】

とくていひえいりかつどうほうじん
特定非営利活動法人
さいたまけんしょうがいしゃきょうぎかい
埼玉県障害者協議会

◇ 編集後記 ◇

完全参加と平等139号は、以上です。いかがでしたか？

本誌136号が皆様のお手元に届いたところに、日本に上陸した新型コロナウイルス、そのころ今の状況を誰が予見できたでしょうか。しかし、本誌掲載の団体活動から、コロナ禍においても様々な工夫に裏打ちされた取り組みを見ることができます。

そんな活動の報告ができればと思うところです。

(平野)